

第2回総会開催される！ 日野 裕 新会長誕生



高崎経済大学応援団演奏



吉田俊幸 学長



市川豊行 本部長

去る8月22日(土)、石川三扇会第2回総会が吉田俊幸学長 田中久夫教授 市川豊行本部長 唐木正浩富山支部会長 大久保敏明福井支部会長にご来臨いただき、21人の会員の参加を得、金沢スカイホテルで成功裡に実施されました。尚今年より在学生にも参加を募り4年生3年生の2名の参加をいただきました。総会では20年度活動報告・決算報告・会計監査報告・21年度活動計画・予算・会則の改定が承認されました。(別記) 又任期満了に伴う役員改選では、日野裕氏(S38年卒)が会長に、ほか12人の再任新任の役員が選任されました。(別記)

引き続き、田中久夫教授によるショートセミナー「会計的閑話」の演題で会計基準のグローバル化と日本企業の時価会計受け入れの変遷の講義をしていただきました。実社会からの会計学の重要性を再認識することができました。(別記)

懇親会は日野新会長の新任挨拶に始まり前述のご来賓の方々の祝辞を頂きました。宴も佳境に達する頃、大学から駆けつけた金山浩団長ほか4名の現役応援団による演奏で懐かしの高崎時代の感慨に浸るひと時をすごすことが出来ました。大学の現状や40年も昔の高崎の話に盛り上がり、又現役学生との就職情報の交換もでき時間が大変短く感じられました。

希望者による学長を囲む会も田中学長の大学経営の意気込みを直に拝聴することができ、有意義な一日でした。

会長就任にあたって

石川三扇会会長 日野 裕 (昭和38年経済学部卒)



日野 裕 新会長

石川三扇会は平成21年の今年、設立より2年を経過、着実にその活動も充実されてまいりました。会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

去る8月22日に開催された第二回総会には、大学より、吉田学長、田中経済学部教授、市川同窓会本部長、唐木富山支部会長、大久保福井支部会長の列席を得、ご多忙にもかかわらず、会員皆様の参加をいただき有難うございました。この総会で石川三扇会第2代会長という大役をおおせつかうこととなりました。設立以来2年という重要な時期にその進展のためにご尽力いただいた茂三郎前会長の後を引き継ぐことになり、その責任の重さを痛感しているところでございます。

今回の総会には、市川本部長のアドバイスもあり、在校生の方2名更には、応援団のメンバー5名に華を添えて頂きました。若く澁潤とした演奏に、若き頃の燃え滾る情熱の魂に久しぶりに触れた感かして、この身を鞭打たれた思いがいたしました。本当に有難うございました。

石川三扇会の今後の活動の伸展に何か必要かと考えますとき、各層の会員の皆様の関心を喚起し、行事に参画いただくことが、先ず、なさねばならないと感じております。

その一環として、役員の皆様にご賛同を得なければなりません。新装なった高崎経済大学の見学と温泉や「卒年別幹事の皆さんによる役員活動の促進」等により、広報活動を強化してまいりたいと考えております。

役員の皆様と協働して、石川三扇会の魅力づくりにこの1年邁進してまいりたいと思っておりますので、よろしくご支援とお導きをいただきますようお願いいたします。



高崎経済大学同窓会石川支部「石川三扇会」第二回総会出席者

(1) 平成20年度活動報告

- *平成20年5月12日
会報第1号(設立総会の様子等を記述)発行、大学・本部・会員に配布
- *平成20年5月18日
幹事会開催 於 県NPO支援センター(あいむ) 18名出席
会員の増員 総会参加者の増員 会員名簿の整備等の意見交換
- *平成20年7月4日
役員会開催 於 金沢スカイホテル 7名出席
総会での報告審議事項の承認
総会の準備及び役割分担
- *平成20年7月13日
第一回総会の開催 於 金沢スカイホテル 参加者27名
平成19年度活動報告・会計報告及び会計監査報告
平成20年度活動計画案・予算案の審議
ショートセミナーの実施 吉田学長による講演
懇親会で大学・本部・富山・福井支部のご来賓、会員相互の親睦を深める学長を囲む会
- *平成20年9月25日
会報第2号(第一回総会の様子・学長によるショートセミナーの内容等を記述)を発行、大学・本部・会員に配布
- *平成21年1月27日
役員会開催 於 碧羅 6名出席
第二回総会の予定日取り場所の検討
任期満了に伴う役員改選について審議

(2) 平成20年度決算報告

(単位：円)

	項目	決算	予算	増減額	備考
収入の部	繰越金	56,824	56,824	0	
	年会費	39,000	38,000	1,000	@1,000
	臨時会費	211,000	182,000	29,000	総会参加費@7,000、二次会費
	写真代	24,000	26,000	-2,000	@1,000
	支部育成費	100,000	100,000	0	同窓会本部
	寄付金	60,000	40,000	20,000	
	広告代	0	50,000	-50,000	
支出の部	雑収入	799	0	799	利子等
	計	491,623	492,824	-1,201	
	総会費	264,895	240,000	24,895	会場費
	印刷費	106,925	120,000	-13,075	会報、コピー代
	通信費	52,710	60,000	-7,290	切手、ハガキ、メール便、送金手数料
	事務用品費	19,086	30,000	-10,914	会印、封筒
	写真現像費	7,338	10,500	-3,142	
	祝儀	10,000	20,000	-10,000	他支部総会
	雑費	2,380	0	2,380	
	準備費	28,269	12,324	15,945	
計	491,623	492,824	-1,201		

監査の結果、正確・適正であったことを認めます

平成21年8月8日

監事 北野 正行

監事 杉野 良平

(3) 平成21年度活動計画(省略)

(4) 平成21年度予算(省略)

「会計的閑話」と題して 田中久夫教授の ショート・セミナー開催



田中久夫教授

去る8月22日(土)、総会后に、経済学部経営学科田中久夫教授を迎え、ショート・セミナーが開催された。田中教授は各種学会でご活躍なさっているが、殊に「会社法と税法の研究」においては、日本会計制度の変革が求められる今、注目されている。

日本企業の多国籍化、証券市場のグローバル化等の進展に伴い、わが国の会計基準が「国際的調和」の方向へと進まざるを得ない事情を背景として、会計を中心に会計の立場から見た会社法と税法のあり方を論じ、会計と会社法、税法三者の乖離が不可避であり、この三者が可及的に一致させようとしてきた方法の果たしてきた役割を容認しながらも、それらの関係が今後の会計基準の急速な国際化に対応せざるを得ないことを教授は論じてこられた。期せずして、商法が全面的に改められて会社法の新設、証券取引法も金融商品取引法に改められ企業を取り巻く状況は様変わりし、内部統制に見られるように、グローバル化の波は、容赦なく我々に新たな課題と実践を迫っている。そうした、趣旨に則り、好適なセミナーであったと思う。その要旨は次の通りであった。

(セミナー要旨)

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の言葉に酔い、「日本企業は世界最強」という幻想を日本人の大半が抱いていた1980年代。が、日本企業が強く見えていたのはそもそもモノサシたる会計基準が狂っているからではないか・・・そんな声は国際社会から湧き上がった。そこで登場した世界統一のモノサシが、銀行の体力を測る国際決裁銀行基準であり、1998年に主要基準が完成した国際会計基準であった。そして、・・・やはり日本の

モノサシは狂っていた。国際決裁銀行基準はバブル崩壊以降、日本の銀行を奈落の底に突き落とし、「日本流」会計基準を国際会計基準に近づける「会計の国際化」は、日本企業に巨額の損失計上を迫った。

1993年11月。ノルウェーのオスロで開かれた国際会計基準委員会の定例理事会で、日本は、世界中の企業の経営成績を比較できるように「会計基準」を世界的に統合しようというプロジェクトに唯一反対した。その意味で、国際会計基準戦争に敗れた日本における戦犯は、まさしく「首」であった。

そして、2001年、ついに日本でも民間主導の会計基準設定機関「財務会計基準機構」が誕生。ここに日本の会計は、官僚主導体制から決別することとなった。

連結決算の導入や保有株への時価会計の導入まで、「会計ビッグバン」は、いま日本の経営を根底から揺さぶっている。日本企業は、巨額の損失計上を迫られるだけではない。こうした「負の資産隠し」も「簿価」を利用した「バブル資産づくり」と「税金逃れ」も、もはや通用しない。国際会計基準の導入とともに変革を強いられる日本の企業の経営のいまを伝える。

90年代半ばから急速に、英米人が重みを感じる「フェア」という表現が使われるようになった。時価＝フェアな価値、という概念が世界中のマーケットで成立した段階で、企業の価値評価をする際に「時価」以外のはもはや使えなくなったのだ。つまりその時点で勝負はついていたのである。

従って、21世紀、日本は、会計について、この時価＝フェアという「理念」を機軸に据えて考え、行動しなければならないと考えている。



講演を聴く出席会員

(5) 会則改定の件

会則を下記のとおり改定する。

現 行	改 訂
(役員) 第4条 本会は、次の役員を置く。 (省 略) 2. 役員の内任期は2年とする。 但し、再任は妨げない。 3. (省 略)	(役員) 第4条 本会は、次の役員を置く。 (省 略) 2. 役員の内任期は1年とする。 但し、再任を妨げない。 3. (省 略)
(会計) 第6条 本会の会計年度は、毎年4月1日より、翌年3月31日までとする。 2. (省 略) 3. (省 略)	(会計) 第6条 本会の会計年度は、毎年8月1日より、翌年7月31日までとする。 2. (省 略) 3. (省 略)

但し、経過措置として、平成21年度の会計年度は、平成21年4月1日より、翌年の7月31日までとする。

(6) 石川三商会役員改選

H21.8.22

役 職	卒業年度	氏 名	区 分
顧問	昭和37年	田 中 雅 晴	再 任
顧問	昭和38年	茂 三 郎	新 任
会 長	昭和38年	日 野 裕	新 任
副 会 長	昭和39年	小 西 和 平	新 任
副 会 長	昭和55年	村 田 律 子	再 任
理 事	昭和40年	岡 田 明	再 任
理 事	昭和42年	今 井 憲 明	再 任
理 事	昭和45年	浅 野 学	再 任
理 事	昭和49年	中 垣 彰	新 任
事 務 局 長	昭和43年	長 井 源 太 郎	再 任
会 計	昭和43年	梅 田 謙 二	新 任
監 事	昭和39年	柿 本 一 雄	新 任
監 事	昭和58年	杉 野 良 平	再 任

生涯スポーツ

柿本 一雄 (第5回卒)

このところ、健康診断を受けるたびに何らかの異常を指摘されているのですが、7月中旬に突然耳が聞こえなくなり(診断の結果「突発性難聴」)、下旬に8日間入院しました。入院といえば高経大入学前の高校3年時、暮れから正月に跨っての「急性虫垂炎」以来で、まさに半世紀ぶりでした。

生老病死のサイクルで「病」の入り口にいますが、病を避けるために「生活習慣の見直し」、「食事の改善」、「適度の運動」を図っていきたく心に誓っています。

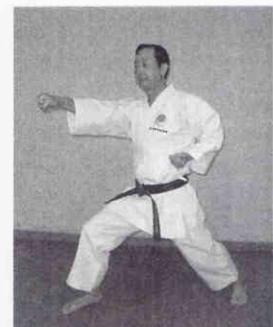
運動といえば、学生時代は空手道部に属して、卒業までの4年間は教室よりも武徳殿(高崎公園内)や体育館にいる時間の方がはるかに多かったと思います。

この空手道がこれまで幾度も私の心身を支えてくれました。この年になっても、身体が動く限り一生続くスポーツになっています。

卒業以来50年間、一時期仕事上稽古を中断したことはありましたが、気持ちは“こころつねに道を離れず”(独行道・宮本武蔵)でした。10年前、群馬から石川に帰った時、(財)日本空手協会群馬県本部から同石川県本部に移籍、現在に至っています。一年前に道場での子供達への指導は引退し、現在は近くの体育館で50代以上の仲間数名と稽古をしています。

たかが空手道ですが、私の身体にとっては「生涯スポーツ」であり、精神的には永遠に辿りつけない「人格完成」を目指す修行です。

何はともあれ、この原稿が遺稿とならないように?いつまでも意気軒昂でありたいと思っています。



編集後記

暑い日々準備に追われた第二回総会も出席者不足でどうなるのか心配されましたがなんとが無事終わり、9月からは会報第3号の編集に取り掛かり、発行の段階になりました。

今年の総会は若年会員の参加が少なかったが、現役の学生男女2名の参加を得られたことは特筆に値することと思います。懇親会では積極的に先輩諸氏と就職の情報交換が行われていました。本会がなんらか手助けになればと祈る次第です。

今回は柿本先輩の寄稿もいただき、氏の半世紀近く及び生き様を垣間見た感が致しました。皆様のごこれまでの貴重な体験等の寄稿の場としてご利用頂ければと願っております。(長井 記)